

Day

2

タイトル

3. パネルディスカッション: アフリカにおけるデータ収集及び適切なSDG指標のモニタリング方法論

発表者

モデレータ: 国連環境計画 科学部SDGsデータ情報ユニット ユニット長 Ludgarde Coppens  
国連ハビタット 都市基盤サービス部廃棄物管理ユニット ユニット長 Graham Alabaster  
国連大学 副学長欧州事務所 持続型循環プログラム 上級職員 Kees Baldé  
RWA Group 部長(コンサルタント) Andy Whiteman  
JICAナイジェリア国「連邦首都区統合的廃棄物管理プロジェクト」副総括 山内 尚  
ハイドロプロテック 部長 (モロッココンサルタント) Nouzha Bouchareb

Coppens氏は、セッション開始に当たり、全パネリストと聴衆に歓迎の挨拶を述べ、かつ、UNEPのSDGユニットでの作業を簡単に紹介した。その後、現場での情報に基づく意思決定のための信頼できるデータの重要性にかかる議論において、測定不可能なものを効果的に管理することは不可能なので、ACCPの目標についても計測を可能とするデータ収集システムの構築が不可欠であると述べた。またSDGsとの整合性についても言及し、他のパネリストにこのテーマについて意見を述べるよう呼びかけた。

最初のパネリストであるAlabaster氏は、いくつかの地域で個人的に目にした固形廃棄物が引き起こす深刻な被害に気づき、この分野に関わるようになったと述べた。さらに、彼は不適切な廃棄物管理による健康リスクを強調し、その例として、最近ラテンアメリカで起こったZikaウイルスの流行を挙げた。最後に、彼は中小規模都市での発生原単位が大都市とたいして変わらないというアフリカ特有の傾向に言及し、それらの中小都市は農村とみなされ、大都市の廃棄物のように適切には管理されていないという問題を指摘した。

第2パネリストのBaldé博士は、急速に拡大する廃電気電子機器(WEEE)問題について注意を喚起した。彼は、中産階級が急増し、技術革新が進む中、WEEEも急増しており、環境と人体に悪影響を及ぼす可能性のある有害物質だけでなく、利益を回収できる貴重な物質も含まれているという、機会とリスクを併せ持つWEEEの特質を強調した。

第3パネリストのWhiteman氏は、彼が共同で開発したWasteAware指標と、これらを廃棄物にかかるデータの収集にどのように活用できるかについて述べた。彼は、廃棄物管理者が実務上必要とするデータ収集の重要性を強調した。最後に、SDGsの主な機能は統計的手法を標準化し、それらに注意を喚起することであり、ACCPはアフリカ地域におけるこのための重要な手段になりうると述べた。

第4パネリストの山内氏は、アフリカ諸国を含む全世界での廃棄物管理に関する経験を語った後、単にデータを収集するだけではなく、収集されたデータや情報が国家計画に反映され、その国の人々に還元されるべきであることを強調した。

最後のパネリストのBouchareb氏は、比較と分析を可能とする統一的なデータの収集が重要であると強調した。一方で、適切な廃棄物管理と環境統計におけるリソース不足を指摘し、モロッコのような低中所得国での廃棄物管理や統計能力の向上のための研修やキャパシティビルディングの必要性についても言及した。

参加者から、電子廃棄物のデータや国連大学が開発したグローバルモニターに関して、タイムラグなどデータ収集における課題の解決方法について質問があった。さらに、良いデータが良い投資に直接つながったケースについても質問がなされた。

要約